

## 第1・2学年 図画工作科授業プラン

1. 題材名 「このいろ しってる」

2. 指導事項 A表現 (1) イ、(2) イ、B鑑賞 (1) ア、〔共通事項〕(1) ア、イ

3. 時間 2時間

4. 題材設定の理由

省略

5. 題材の目標

- (1)・色を基に見つけたものを表す自分の感覚や行為を通して、いろいろな色に気付く。
  - ・色紙やパスなどに十分慣れるとともに、手や体全体、感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。
- (2)・色を基に、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考える。
  - ・自分たちの作品や色紙の色などの造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
  - ・いろいろな色を基に、自分のイメージをもつ。
- (3)・楽しく、色を基に見つけたものを表す活動や自分たちの作品を鑑賞する活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

6. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・色を基に見つけたものを表す自分の感覚や行為を通して、いろいろな色に気付いている。</li> <li>・色紙やパスなどに十分慣れるとともに、手や体全体、感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな色を基に、自分のイメージをもちながら、色を基に、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えている。</li> <li>・いろいろな色を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や色紙の色などの造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりだす喜びを味わい楽しく、色を基に見つけたものを表す活動や自分たちの作品を鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

7. 展開

時間	児童の主な学習活動	指導上の留意点◇ 評価の観点<知・思・主>
----	-----------	-----------------------

導入 5分	赤色、黄色の色紙（トータルカラー）から、どんなものを思い浮かべたか、聞き合う。 「赤色といえば、いちごがあるよ。」 「りんごも赤色だね。」 「家のそばの郵便ポストも赤色だなあ。」 「黄色といえば、きつねの色だね。」 「他の色のものも知っているよ。」	◇ものを連想しやすい色を選んで、黒板に色紙を貼り、色に対する興味をもたせる。 ・色紙の周りに児童の気付きをかいていき、どのように考えればよいか児童に気付かせる。 ・複数の色を例示し、色を基に思いつくことができるようにする。 <b>色を基に見付けたものを表す自分の感覚や行為を通して、いろいろな色に気付いている。（知）</b>
展開① 20分	色紙と画用紙を配り、色を基に思い付いたものをかく。 「緑色の葉っぱがあるよ。」 「秋には、葉っぱの色が変わって、赤くなるから、赤色の葉っぱもかこう。」 「夕焼け空や水はどんな形でかいたらいいのかな。」	◇色を基に思い付いたものを自分なりの表し方で絵に表すことを伝える。 ・配った色紙の全てを使ってもよいこと、また同じ色が欲しくなったら取りに来てよいことを伝える。 ・多めに色紙を切って用意しておく。 ◇どのようなことを思い付き、絵に表しているのか、児童の話を共感的に受け止め、さらにイメージを広げるような声かけをする。 <b>いろいろな色を基に、自分のイメージをもちながら、色を基に、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すか考えている。（思）</b>
展開② 20分	友人と絵を見せ合いながら、感じたことや思ったことを伝え合う。 「私と同じ黄緑色のものをかいたんだね。」 「同じ青色でも、いろんなものがあるんだね。」 「葉っぱを緑色でかいている子も、赤色でかいている子もいたよ。」	◇同じ色から多様なものを思いつくこと、異なる色からでも同じものを思いつくこと、形のないものを思いつくことの造形的な面白さや楽しさに気付けるように、児童のつぶやきに着目し、共感的に見守る。 <b>いろいろな色を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品や色紙の色などの造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。（思）</b>
終末 10分	感じたことを全体場で伝え合ったり、教師の話の聞いたりして、身の回りにあるものの色への意識を高める。 「友だちも同じように感じていたんだな。」	◇感じたことを共有する場を設け、これから身の回りのものがどんな色をしているか、意識しながら生活できるよう促す。

	「身の回りにはどんな色のものがあるのか、見付けてみたいな。」	
--	--------------------------------	--

## 8. 材料・用具

教師： トーナルカラー角型 25 色（各 4 分の 1 の正方形に裁断）、画用紙（3 2 切）

粘着テープ（壁や柱などに簡単に貼る場合。原則貼り付ける必要はない。）

児童： クレヨン・パス、タブレット、

動画作成協力： 幼少年造形美術研究会（Child Art Project：通称 CAP）

代表 西尾正寛先生（畿央大学）